



2022年3月期 第3四半期決算短信(米国基準)(連結)

2022年2月9日

上場会社名 富士フイルムホールディングス株式会社
 コード番号 4901 URL <https://holdings.fujifilm.com/ja>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO (氏名) 後藤 禎一
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 吉澤 ちさと
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

上場取引所 東
 TEL 03-6271-1111

(百万円未満四捨五入)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	1,860,902	18.3	186,453	54.8	207,240	18.5	157,106	24.2
2021年3月期第3四半期	1,573,434	9.0	120,468	20.6	174,821	5.0	126,489	4.8

(注) 四半期包括利益 2022年3月期第3四半期 202,032百万円 (34.8%) 2021年3月期第3四半期 149,876百万円 (24.5%)

	基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	392.40	391.46
2021年3月期第3四半期	316.42	315.36

(2) 連結財政状態

	総資産	資本合計(純資産)	株主資本	株主資本比率
	百万円	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	3,726,019	2,401,696	2,382,370	63.9
2021年3月期	3,549,203	2,222,157	2,204,566	62.1

(注) 資本合計(純資産)は、P.9の連結貸借対照表の純資産合計を読み替えております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		47.50		52.50	100.00
2022年3月期		55.00			
2022年3月期(予想)				55.00	110.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当社株主に帰属する当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	2,510,000	14.5	225,000	36.0	245,000	3.9	185,000	2.1	円 銭 461.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 「1株当たり当社株主帰属当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2021年12月31日現在の発行済株式数(自己株式数を除く)を使用しております。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期3Q	514,625,728 株	2021年3月期	514,625,728 株
------------	---------------	----------	---------------

期末自己株式数

2022年3月期3Q	113,846,693 株	2021年3月期	114,823,247 株
------------	---------------	----------	---------------

期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期3Q	400,302,640 株	2021年3月期3Q	399,752,967 株
------------	---------------	------------	---------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.6「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

[目次]

1.	当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
	(1) 経営成績に関する説明	P. 2
	(2) 財政状態に関する説明	P. 5
	(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 6
2.	サマリー情報（注記事項）に関する事項	P. 7
	(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 7
	(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用	P. 7
	(3) 会計方針の変更	P. 7
3.	継続企業の前提に関する重要事象等	P. 7
4.	四半期連結財務諸表	P. 8
	(1) 四半期連結貸借対照表	P. 8
	(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 （四半期連結損益計算書）	P. 10 P. 10
	【第3四半期連結累計期間】	P. 10
	【第3四半期連結会計期間（3ヶ月）】	P. 11
	（四半期連結包括利益計算書）	P. 12
	【第3四半期連結累計期間】	P. 12
	【第3四半期連結会計期間（3ヶ月）】	P. 12
	(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 13
	(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 14
	（継続企業の前提に関する注記）	P. 14
	（セグメント情報）	P. 14
	1) 第3四半期連結累計期間	P. 14
	2) 第3四半期連結会計期間（3ヶ月）	P. 16
	（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）	P. 16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(単位：億円)

	2022年3月期 第3四半期累計		2021年3月期 第3四半期累計		増減額	増減率
国内売上高	38.2%	7,104	41.7%	6,567	537	8.2%
海外売上高	61.8%	11,505	58.3%	9,167	2,338	25.5%
売上高	100.0%	18,609	100.0%	15,734	2,875	18.3%
営業利益	10.0%	1,865	7.7%	1,205	660	54.8%
税金等調整前四半期純利益	11.1%	2,072	11.1%	1,748	324	18.5%
当社株主帰属四半期純利益	8.4%	1,571	8.0%	1,265	306	24.2%
為替レート (円/米\$)		111 円		106 円	5 円	
為替レート (円/Euro)		131 円		123 円	8 円	

当社グループの2022年3月期第3四半期累計期間における連結売上高は、メディカルシステム事業、バイオCDMO事業、ライフサイエンス事業などのヘルスケア領域を中心に売上を伸ばし、1兆8,609億円（前年同期比18.3%増）となりました。

営業利益は、1,865億円（前年同期比54.8%増）となりました。税金等調整前四半期純利益は、2,072億円（前年同期比18.5%増）、当社株主帰属四半期純利益は1,571億円（前年同期比24.2%増）となりました。当四半期累計期間の円為替レートは、対米ドルで111円、対ユーロで131円となりました。

【オペレーティングセグメント】

当社のオペレーティングセグメントは、2021年度を初年度とする中期経営計画「VISION2023」の策定にあたり、当連結会計年度より従来の3事業セグメントから次のとおり4事業セグメントへ変更しております。

- ・ヘルスケアが当社の成長を中長期的に牽引し、その業績を明確に示すため、「ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション」を「ヘルスケア」セグメントと「マテリアルズ」セグメントに分離
- ・「ドキュメント ソリューション」が、オフィスプリントにとどまらず、幅広く事業領域を拡大し、ビジネスに革新をもたらすソリューション・サービスを提供していくことを示すため、名称を「ビジネスイノベーション」セグメントに変更
- ・当社グループ内でのシナジー創出を加速し、印刷業界へさらなる価値をグローバルに提供していくため、「ドキュメント ソリューション」に含まれるプロダクション・サービスと、「ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション」に含まれるグラフィックシステムを、「マテリアルズ」セグメントのグラフィックコミュニケーションに統合

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分方法により作成したものを記載しています。

【事業セグメント別の売上高】

(単位：億円)

セグメント	2022年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	増減額	増減率
ヘルスケア	5,767	3,881	1,886	48.6%
マテリアルズ	4,649	4,173	476	11.4%
ビジネスイノベーション	5,591	5,494	97	1.8%
イメージング	2,602	2,186	416	19.0%
連結合計	18,609	15,734	2,875	18.3%

【事業セグメント別の営業利益】

(単位：億円)

セグメント	2022年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	増減額	増減率
ヘルスケア	753	362	391	108.0%
マテリアルズ	579	459	120	25.9%
ビジネスイノベーション	422	467	△45	△9.6%
イメージング	347	141	206	145.6%
全社費用及び セグメント間取引消去	△236	△224	△12	—
連結合計	1,865	1,205	660	54.8%

「ヘルスケア部門」

ヘルスケア部門の連結売上高は、5,767億円（前年同期比48.6%増）となりました。

当部門の営業利益は、753億円（前年同期比108.0%増）となりました。

メディカルシステム事業では、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）に有用な製品の需要拡大や内視鏡製品の販売が伸長したことなどにより、売上が大幅に増加しました。2021年3月31日に株式会社日立製作所の画像診断関連事業を承継し、新しいグループ会社としてスタートした「富士フイルムヘルスケア株式会社」との連携も順調に進展しており、当事業の好調な業績に寄与しています。X線画像診断分野では、日本でCOVID-19関連の需要増を取り込んだことに加え、インドや中南米などの新興国を中心にクリニック層へX線画像診断システム「FCR (Fuji Computed Radiography)」の販売が好調に推移するなど、売上が増加しました。超音波診断分野では、POC (Point of Care) 向け超音波診断装置「Sonosite PX」や据置型超音波診断装置「ARIETTA 750」の販売が米国、欧州を中心に好調に推移しました。医療IT分野では、医用画像情報システム (PACS) 「SYNAPSE」や3次元画像解析システム (3D) 「SYNAPSE VINCENT」を中心としたシステム・サービス販売が日本や中国、欧州を中心に好調に推移しました。2021年8月には、AI技術を活用して胸部単純X線画像の肺がん・肺炎・気胸診断を支援する胸部X線画像病変検出ソフトウェア「CXR-AID」を発売しました。内視鏡分野では、特殊光観察が可能な「7000システム」などの販売が欧州、米国を中心に伸長しました。体外診断 (IVD) 分野では、血液生化学検査「富士ドライケム」機器・スライドや、富士フイルム和光純薬株式会社の生化学試薬の販売が好調で、売上が大幅に増加しました。CT・MRI分野では、新たに製品ラインアップに加わった富士フイルムヘルスケア株式会社の製品を、富士フイルム株式会社の販路を活用して拡販を進めたことや、COVID-19関連の需要増などにより、売上が増加しました。

バイオCDMO事業では、欧米各拠点でのバイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託が好調に推移したことや、COVID-19用ワクチン候補の原薬製造が寄与するなど、売上が大幅に増加しました。事業成長を一段と加速させるため、総額約900億円を投じ、米国拠点における遺伝子治療薬及びワクチンの原薬製造設備や、英国拠点の抗体医薬品及び遺伝子治療薬の原薬製造設備について増強を行うことを2021年6月に決定しました。当増強設備の稼働は、2023年後半を予定しています。

ライフサイエンス事業では、FUJIFILM Irvine Scientific, Inc. (米国) が展開するバイオ医薬品製造向けの培地などの販売が好調に推移し、売上が大幅に増加しました。2021年12月には、中国における培地ビジネスを拡大するため、蘇州高新区に培地のカスタマイズサービス拠点「Innovation & Collaboration Center」の開設を発表しました。また、同月に、培地の生産能力を増強するため、オランダで新工場を稼働させました。日米欧3拠点のグローバル生産体制で、顧客の創薬・医薬品製造をより強力にサポートしていきます。

医薬品事業では、抗インフルエンザウイルス薬「アビガン®錠」（一般名：ファビピラビル）の海外向け販売が増加しました。2021年9月には、ライフサイエンス領域の事業ポートフォリオ最適化の一環として、富士フイルム富山化学株式会社の放射性医薬品事業をペプチドリーム株式会社へ譲渡することを決定しました。今後は、現行パイプラインの開発を進めるとともに、ペニシリンなどの抗菌剤の製造・販売、製造受託に加え、核酸医薬品や次世代の新型コロナワクチン候補も含む mRNA ワクチンのプロセス開発・製造受託などの受託ビジネスに注力していきます。

コンシューマーヘルスケア事業では、「メタバリア EX」などサプリメントの販売が伸長したことに加え、化粧品でもシンプルなステップで効果的なスキンケアを実現するシリーズ「ASTALIFT Opme (ア

スタリフト オプミー)」の第一弾として発売した新製品「アスタリフト オプミー」の販売が好調に推移し、売上が増加しました。今後も顧客のニーズを捉えた独自性の高い製品を提供し、人々の美容と健康に貢献していきます。

「マテリアルズ部門」

マテリアルズ部門の連結売上高は、4,649 億円（前年同期比 11.4%増）となりました。

当部門の営業利益は、579 億円（前年同期比 25.9%増）となりました。

電子材料事業では、旺盛な半導体需要を背景に、フォトレジストやCMP スラリー、ポストCMP クリーナー、ポリイミドなど幅広い製品群で販売が好調に推移し、売上が大幅に増加しました。今後も5Gや自動運転などに使用される最先端半導体向けをはじめとして、半導体の微細化・高集積化に対応した幅広い製品を提供することで、成長を加速させていきます。

ディスプレイ材料事業では、在宅需要を背景にTV、モニター及びタブレット向けの高機能フィルム製品の販売が好調に推移したことなどにより、売上が増加しました。

産業機材事業では、非破壊検査用機器・材料で、COVID-19 流行拡大の影響を受けていた欧米の航空業界向けの販売が回復基調にあることや、電子部品などの製造に使用される材料の販売が伸長し、売上が増加しました。

ファインケミカル事業では、COVID-19 流行拡大の影響を受けていた各産業の景気回復に合わせて重合材料など化成品の販売が伸長し、売上が増加しました。

記録メディア事業では、COVID-19 流行拡大の影響を受けていたデータアーカイブ用のテープ需要が回復傾向にあり、売上が増加しました。2021年9月には、大容量データのバックアップやアーカイブに最適な磁気テープストレージメディア規格「LTO Ultrium」の第9世代に対応した「FUJIFILM LTO Ultrium9 データカートリッジ」を発売しました。磁気テープは、大容量データを低コストで安全に長期保管できることに加え、ハードディスクドライブに比べてデータ保管における消費電力により発生するCO₂の排出量を95%削減でき^{※1}、環境負荷を大幅に低減する製品として注目されています。今後も顧客ニーズに対応する高性能・高品質のメディアやサービスの開発・提供を通じて、更なる事業成長を図るとともに、社会課題の解決に取り組んでいきます。

※1：100PB（ペタバイト）のデータを10年間HDDに保管した場合と磁気テープに保管した場合を比較し、保管で発生するCO₂の排出量を95%（約2,400トン）削減できます。（出典：Brad Johns Consulting, LLC “Improving Information Technology Sustainability with Modern Tape Storage”）

グラフィックコミュニケーション事業では、刷版材料分野において、日本、米国を中心にCOVID-19流行拡大の影響を受けていた需要が回復するなど、販売を伸ばし、売上が増加しました。デジタル印刷分野では、B2枚葉型インクジェット印刷機で世界最速^{※2}の毎時5,400枚の印刷スピードを実現した「Jet Press 750S High Speed Model」を2021年11月に発売しました。プロダクション関連商品の新たなブランド「Revoria（レヴオリア）」では、ハイエンドプロダクションカラープリンター「Revoria Press PC1120」を2021年7月より国内を皮切りに海外においても順次発売しました。今後もこのような独自の先進技術を用いた画期的な製品を開発・提供することで、事業成長を図るとともに、業界のデジタル化を牽引していきます。

※2：2021年12月時点。富士フイルム調べ。

インクジェット事業では、産業用インクジェットヘッドの販売が、欧州、中国の建材印刷市場での需要増により好調に推移しました。インクの販売は、ホーム&オフィス市場向け染料インクを中心に販売を伸ばし、全体で売上が増加しました。今後もインクジェット市場のニーズにあわせたグローバルな生産体制を構築し、事業成長を一段と加速させていきます。

「ビジネスイノベーション部門」

ビジネスイノベーション部門の連結売上高は、5,591 億円（前年同期比 1.8%増）となりました。

当部門の営業利益は、422 億円（前年同期比 9.6%減）となりました。

オフィスソリューション事業では、第2四半期に引き続きアジアパシフィック地域でのロックダウンや半導体等の部品供給の逼迫を背景とした機器の供給・設置遅延などの影響を受けましたが、第3

四半期累計では COVID-19 流行拡大影響からの経済回復に伴うノンハードの売上回復や為替影響などにより、売上が増加しました。「FUJIFILM」ブランドによるグローバル展開においては、2021年4月にデザインを一新し、セキュリティ機能を強化したデジタルカラー複合機及びプリンター「Apeos」の新製品を発売しました。また、富士フイルム株式会社の海外拠点や有望な代理店を活用した販路の拡大を目指しており、第3四半期には、新たな市場でオフィス向け製品の販売を開始しました。今後も、欧州や中東、中南米などの新市場を開拓するとともに、新規の OEM 供給を含め、グローバル展開を拡大させていきます。

ビジネスソリューション事業では、国内で自治体向けのビジネスが増加したことや、海外を中心に BPO (ビジネスプロセスアウトソーシング) 事業が好調に推移し、売上が増加しました。2022年1月1日には、買収が完了した HOYA デジタルソリューションズ株式会社は「富士フイルムデジタルソリューションズ株式会社」として新たに事業活動を開始しました。新会社が提供する基幹システムの販売及び導入支援を含め、今後も、お客様の DX に資するソリューション・サービスメニューを順次提供し、ビジネスソリューション事業の更なる成長を加速させていきます。

「イメージング部門」

イメージング部門の連結売上高は、2,602 億円 (前年同期比 19.0%増) となりました。

当部門の営業利益は、347 億円 (前年同期比 145.6%増) となりました。

コンシューマーイメージング分野では、インスタントフォトシステム、カラーペーパー、ドライブレソリ機器及び材料の販売が好調に推移し、売上が増加しました。インスタントフォトシステムでは、デバイス・フィルム共に販売が好調に推移しました。2021年10月には、スマートフォンで撮影した画像を、通常のカードサイズのミニフォーマットフィルムの2倍の大きさとなるワイドフォーマットフィルムにプリントができるスマートフォン用プリンター“チェキ”「instax Link WIDE (インスタックス リンク ワイド)」を発売しました。音声・テキストメッセージ、位置情報、WEB ページの URL をその場で QR コード化し撮影画像に組み込んでプリントできる機能を加えたことで、個人用途だけではなく、ビジネス用途でも活用できると高い評価を受けています。また、2021年12月には instax シリーズの最上位機種として、カードサイズのミニフォーマットフィルム対応のハイブリッドインスタントカメラ“チェキ”「instax mini Evo (インスタックス ミニ エヴォ)」を発売し、クラシックなカメラデザインと 100 通りの撮影エフェクトが好評で、好調に販売台数を伸ばしました。今後も多様化する顧客のニーズに応え、便利で付加価値の高い製品・サービスを提供するとともに、「撮る、残す、飾る、そして贈る」という写真本来の価値を世界中で伝え続けていきます。

プロフェッショナルイメージング分野では、約 1 億 2 百万画素で最高画質を実現したラージフォーマットミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100S」の販売が好調に推移しました。加えて、2021年9月に「GFX シリーズ」の最新モデルとして約 5,140 万画素のラージフォーマットミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX50S II」を発売し、「GFX」ユーザー層を拡大しました。2021年11月には、高画質と小型軽量を両立させた「X シリーズ」最新モデル、ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T30 II」を発売しました。今後も「GFX」では最高画質を、「X シリーズ」では画質とサイズのベストバランスを実現し、魅力的な製品を提供していきます。また、放送・シネマ用レンズの販売が、COVID-19 流行拡大による需要減から回復基調にあり、工業マシビジョン用やプロジェクター用など産業用レンズの販売も好調に推移し、同分野全体で売上が増加しました。

(2) 財政状態に関する説明

2022年3月期第3四半期末は、棚卸資産の増加などにより、前期末 (2021年3月31日) に比べ、資産合計が 1,768 億円増の 3 兆 7,260 億円となりました。負債は 27 億円減の 1 兆 3,243 億円となりました。株主資本は 1,778 億円増の 2 兆 3,824 億円となりました。この結果、流動比率は前期末に比べ 7.3 ポイント減の 203.1%、負債比率は 4.6 ポイント減の 55.6%、株主資本比率は 1.8 ポイント増の 63.9% となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

【キャッシュ・フローの状況】

(単位：億円)

	2022年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,135	2,924	△789
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,152	△799	△353
財務活動によるキャッシュ・フロー	△779	△1,177	398

2022年3月期第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、2,135億円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の購入などにより、1,152億円の支出となりました。この結果、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合計したフリー・キャッシュ・フローは、983億円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いなどにより、779億円の支出となりました。

現金及び現金同等物の2022年3月期第3四半期末残高は、前期末(2021年3月31日)に比べ302億円増加し、4,250億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明
(2022年3月期の連結業績予想)

(単位：億円)

	前回発表予想(A) (2021年11月4日 発表)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	(参考) 前期実績 (2021年3月期)
売上高	25,100	25,100	-	-	21,925
営業利益	2,200	2,250	50	2.3%	1,655
税金等調整前 当期純利益	2,400	2,450	50	2.1%	2,359
当社株主帰属 当期純利益	1,750	1,850	100	5.7%	1,812
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	436.65円	461.60円	24.95円	5.7%	453.28円
ROE (%)	7.7%	8.1%	-	0.4ポイント	8.7%
為替レート (円/米\$)	109円	112円	3円	-	106円
(円/Euro)	132円	130円	△2円	-	124円

注) 「1株当たり当社株主帰属当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、前回発表予想では2021年9月30日現在の発行済株式数(自己株式数を除く)を、今回修正予想では2021年12月31日現在の発行済株式数(自己株式数を除く)をそれぞれ使用しております。

2022年3月期業績は、イメージングを中心とした足元の好調な業績を受けて、営業利益、税金等調整前当期純利益を上方修正します。また、持分法による投資損益の増益などにより、当社株主帰属当期純利益も上方修正します。営業利益は2,250億円(前回比2.3%増)、税金等調整前当期純利益は2,450億円(前回比2.1%増)、当社株主帰属当期純利益は1,850億円(前回比5.7%増)を予想しております。

通期での対米ドル円為替レートを112円、対ユーロ円為替レートを130円で想定しております。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

(1) 四半期連結貸借対照表

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期 連結会計期間末 2021年12月31日現在	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 2021年3月31日現在	増減 (△は減少)
[資産の部]				
流動資産				
現金及び現金同等物		425,048	394,795	30,253
受取債権				
営業債権		553,387	574,319	△ 20,932
リース債権		44,082	51,644	△ 7,562
関連会社等に対する債権		2,191	2,462	△ 271
貸倒引当金		△ 20,151	△ 22,707	2,556
		579,509	605,718	△ 26,209
棚卸資産		486,866	417,662	69,204
前払費用及びその他の流動資産		133,429	89,201	44,228
流動資産 合計		1,624,852	1,507,376	117,476
投資及び長期債権				
関連会社等に対する投資及び貸付金		41,536	31,849	9,687
投資有価証券		108,766	111,650	△ 2,884
長期リース債権		57,857	62,068	△ 4,211
その他の長期債権		24,665	25,426	△ 761
貸倒引当金		△ 2,787	△ 3,167	380
投資及び長期債権 合計		230,037	227,826	2,211
有形固定資産				
土地		104,699	105,764	△ 1,065
建物及び構築物		719,447	718,513	934
機械装置及びその他の有形固定資産		1,485,740	1,474,840	10,900
建設仮勘定		109,938	63,913	46,025
		2,419,824	2,363,030	56,794
減価償却累計額		△ 1,745,424	△ 1,727,779	△ 17,645
有形固定資産 合計		674,400	635,251	39,149
その他の資産				
オペレーティング・リース使用权資産		78,213	78,203	10
営業権		788,364	804,199	△ 15,835
その他の無形固定資産		152,548	128,496	24,052
その他		177,605	167,852	9,753
その他の資産 合計		1,196,730	1,178,750	17,980
資産 合計		3,726,019	3,549,203	176,816

富士フイルムホールディングス(株)2022年3月期第3四半期決算

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期 連結会計期間末 2021年12月31日現在	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 2021年3月31日現在	増減 (△は減少)
[負債の部]				
流動負債				
社債及び短期借入金		126,622	63,729	62,893
支払債務				
営業債務		230,202	217,308	12,894
設備関係債務		26,812	21,157	5,655
関連会社等に対する債務		1,265	1,455	△ 190
		258,279	239,920	18,359
未払法人税等		31,058	24,527	6,531
未払費用		186,281	197,519	△ 11,238
短期オペレーティング・リース負債		30,985	28,938	2,047
その他の流動負債		166,939	161,651	5,288
流動負債 合計		800,164	716,284	83,880
固定負債				
社債及び長期借入金		346,151	439,351	△ 93,200
退職給付引当金		29,822	30,090	△ 268
長期オペレーティング・リース負債		52,452	54,946	△ 2,494
その他の固定負債		95,734	86,375	9,359
固定負債 合計		524,159	610,762	△ 86,603
負債 合計		1,324,323	1,327,046	△ 2,723
[純資産の部]				
株主資本				
資本金		40,363	40,363	-
普通株式				
発行可能株式総数 800,000,000株				
発行済株式総数 514,625,728株				
利益剰余金		2,835,476	2,702,760	132,716
その他の包括利益(△損失)累積額		△ 11,874	△ 52,836	40,962
自己株式		△ 481,595	△ 485,721	4,126
株主資本 合計		2,382,370	2,204,566	177,804
非支配持分		19,326	17,591	1,735
純資産 合計		2,401,696	2,222,157	179,539
負債・純資産 合計		3,726,019	3,549,203	176,816

(注)その他の包括利益(△損失)累積額 内訳

	2021年12月31日現在	2021年3月31日現在	増減 (△は減少)
有価証券未実現損益	7	1	6
為替換算調整額	72,049	32,973	39,076
年金負債調整額	△ 84,018	△ 86,038	2,020
デリバティブ未実現損益	88	228	△ 140

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

【第3四半期連結累計期間】

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期 連結累計期間 自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日		2021年3月期第3四半期 連結累計期間 自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日		増減 (△は減少)	
						増減額	増減率
		%		%			%
売上高		100.0	1,860,902	100.0	1,573,434	287,468	18.3
売上原価		57.8	1,076,403	58.6	922,495	153,908	16.7
売上総利益		42.2	784,499	41.4	650,939	133,560	20.5
営業費用							
販売費及び一般管理費		26.2	486,105	26.7	419,722	66,383	15.8
研究開発費		6.0	111,941	7.0	110,749	1,192	1.1
		32.2	598,046	33.7	530,471	67,575	12.7
営業利益		10.0	186,453	7.7	120,468	65,985	54.8
営業外収益及び費用(△)							
受取利息及び配当金			4,041		3,346	695	
支払利息			△ 1,663		△ 2,010	347	
為替差損益・純額			471		△ 5,659	6,130	
持分証券に関する損益・純額			5,874		39,770	△ 33,896	
その他損益・純額			12,064		18,906	△ 6,842	
		1.1	20,787	3.4	54,353	△ 33,566	△ 61.8
税金等調整前四半期純利益		11.1	207,240	11.1	174,821	32,419	18.5
法人税等		3.1	57,122	2.9	46,195	10,927	23.7
持分法による投資損益		0.6	10,330	△ 0.1	△ 841	11,171	-
四半期純利益		8.6	160,448	8.1	127,785	32,663	25.6
控除:非支配持分帰属損益		△ 0.2	△ 3,342	△ 0.1	△ 1,296	△ 2,046	157.9
当社株主帰属四半期純利益		8.4	157,106	8.0	126,489	30,617	24.2

【第3四半期連結会計期間(3ヶ月)】

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期 連結会計期間		2021年3月期第3四半期 連結会計期間		増減 (△は減少)	
		自 2021年10月1日 至 2021年12月31日		自 2020年10月1日 至 2020年12月31日		増減額	増減率
		%		%			%
売上高		100.0	655,768	100.0	576,045	79,723	13.8
売上原価		57.6	377,622	56.0	322,342	55,280	17.1
売上総利益		42.4	278,146	44.0	253,703	24,443	9.6
営業費用							
販売費及び一般管理費		24.9	163,391	26.6	153,366	10,025	6.5
研究開発費		5.5	36,164	6.3	36,340	△ 176	△ 0.5
営業利益		30.4	199,555	32.9	189,706	9,849	5.2
営業利益		12.0	78,591	11.1	63,997	14,594	22.8
営業外収益及び費用(△)							
受取利息及び配当金			1,595		1,443	152	
支払利息			△ 570		△ 905	335	
為替差損益・純額			1,324		△ 1,947	3,271	
持分証券に関する損益・純額			△ 8,007		8,545	△ 16,552	
その他損益・純額			4,406		4,119	287	
税金等調整前四半期純利益		△ 0.2	△ 1,252	2.0	11,255	△ 12,507	-
税金等調整前四半期純利益		11.8	77,339	13.1	75,252	2,087	2.8
法人税等		3.2	20,887	3.1	17,593	3,294	18.7
持分法による投資損益		0.9	5,616	0.3	1,810	3,806	210.3
四半期純利益		9.5	62,068	10.3	59,469	2,599	4.4
控除:非支配持分帰属損益		△ 0.2	△ 1,220	△ 0.1	△ 586	△ 634	108.2
当社株主帰属四半期純利益		9.3	60,848	10.2	58,883	1,965	3.3

(四半期連結包括利益計算書)

【第3四半期連結累計期間】

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期	2021年3月期第3四半期	増減 (△は減少)
		連結累計期間 自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	連結累計期間 自 2020年4月1日 至 2020年12月31日	
四半期純利益		160,448	127,785	32,663
その他の包括利益(△損失) - 税効果調整後				
有価証券未実現損益変動額		6	△ 17	23
為替換算調整額		39,736	15,477	24,259
年金負債調整額		1,982	6,461	△ 4,479
デリバティブ未実現損益変動額		△ 140	170	△ 310
合計		41,584	22,091	19,493
四半期包括利益		202,032	149,876	52,156
控除: 非支配持分帰属四半期包括損益		△ 3,964	△ 1,722	△ 2,242
当社株主帰属四半期包括利益		198,068	148,154	49,914

【第3四半期連結会計期間(3ヶ月)】

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期	2021年3月期第3四半期	増減 (△は減少)
		連結会計期間 自 2021年10月1日 至 2021年12月31日	連結会計期間 自 2020年10月1日 至 2020年12月31日	
四半期純利益		62,068	59,469	2,599
その他の包括利益(△損失) - 税効果調整後				
有価証券未実現損益変動額		2	△ 8	10
為替換算調整額		32,951	6,235	26,716
年金負債調整額		687	1,207	△ 520
デリバティブ未実現損益変動額		28	35	△ 7
合計		33,668	7,469	26,199
四半期包括利益		95,736	66,938	28,798
控除: 非支配持分帰属四半期包括損益		△ 1,781	△ 700	△ 1,081
当社株主帰属四半期包括利益		93,955	66,238	27,717

科目	期別	2022年3月期第3四半期	2021年3月期第3四半期	増減 (△は減少)
		連結累計期間 自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	連結累計期間 自 2020年4月1日 至 2020年12月31日	
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー				
1. 四半期純利益		160,448	127,785	32,663
2. 営業活動により増加した純キャッシュへの調整				
(1) 減価償却費		97,740	90,884	6,856
(2) 持分証券に関する損益		△ 5,874	△ 39,770	33,896
(3) 持分法による投資損益(受取配当金控除後)		△ 9,959	1,112	△ 11,071
(4) 資産及び負債の増減				
受取債権の減少		35,359	37,225	△ 1,866
棚卸資産の増加		△ 66,141	△ 29,901	△ 36,240
営業債務の増加・減少(△)		7,881	△ 10,436	18,317
前払費用及びその他の流動資産の増加(△)・減少		△ 13,836	60,725	△ 74,561
未払法人税等及びその他負債の増加		1,549	29,609	△ 28,060
(5) その他		6,312	25,176	△ 18,864
小計		53,031	164,624	△ 111,593
営業活動によるキャッシュ・フロー		213,479	292,409	△ 78,930
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー				
1. 有形固定資産の購入		△ 90,858	△ 72,894	△ 17,964
2. ソフトウェアの購入		△ 26,961	△ 15,400	△ 11,561
3. 投資有価証券の売却及び満期償還		11,925	23,339	△ 11,414
4. 投資有価証券の購入		△ 2,211	△ 1,338	△ 873
5. 定期預金の増加(純額)		△ 2,316	△ 772	△ 1,544
6. 関連会社投融資及びその他貸付金の増加		△ 454	△ 2,673	2,219
7. その他		△ 4,359	△ 10,184	5,825
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 115,234	△ 79,922	△ 35,312
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー				
1. 長期債務による調達額		2,362	2,473	△ 111
2. 長期債務の返済額		△ 31,340	△ 31,330	△ 10
3. 満期日が3ヵ月以内の短期債務の減少(純額)		△ 1,900	△ 934	△ 966
4. 満期日が3ヵ月超の短期債務の返済額		-	△ 50,000	50,000
5. 親会社による配当金支払額		△ 43,032	△ 37,975	△ 5,057
6. 非支配持分への配当金支払額		△ 777	△ 1,306	529
7. 自己株式の取得及び売却		△ 24	△ 12	△ 12
8. 非支配持分との資本取引その他		△ 3,162	1,429	△ 4,591
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 77,873	△ 117,655	39,782
IV. 為替変動による現金及び現金同等物への影響		9,881	3,844	6,037
V. 現金及び現金同等物純増加		30,253	98,676	△ 68,423
VI. 現金及び現金同等物期首残高		394,795	396,091	△ 1,296
VII. 現金及び現金同等物四半期末残高		425,048	494,767	△ 69,719

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

1) 第3四半期連結累計期間

① 事業別セグメント情報

【売上高】

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期 連結累計期間		2021年3月期第3四半期 連結累計期間		増減 (△は減少)	
		自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日		自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日		増減額	増減率
売上高 :		%		%			%
ヘルスケア :							
外部顧客に対するもの		31.0	576,728	24.7	388,121	188,607	48.6
セグメント間取引			58		138	△ 80	-
計			576,786		388,259	188,527	48.6
マテリアルズ :							
外部顧客に対するもの		25.0	464,885	26.5	417,251	47,634	11.4
セグメント間取引			974		899	75	-
計			465,859		418,150	47,709	11.4
ビジネスイノベーション :							
外部顧客に対するもの		30.0	559,124	34.9	549,416	9,708	1.8
セグメント間取引			2,929		1,744	1,185	-
計			562,053		551,160	10,893	2.0
イメージング :							
外部顧客に対するもの		14.0	260,165	13.9	218,646	41,519	19.0
セグメント間取引			1,710		1,401	309	-
計			261,875		220,047	41,828	19.0
セグメント間取引消去			△ 5,671		△ 4,182	△ 1,489	-
連結 合計		100.0	1,860,902	100.0	1,573,434	287,468	18.3

【営業利益】

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期 連結累計期間		2021年3月期第3四半期 連結累計期間		増減 (△は減少)	
		自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日		自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日		増減額	増減率
営業利益 :		%		%			%
ヘルスケア		13.1	75,317	9.3	36,213	39,104	108.0
マテリアルズ		12.4	57,881	11.0	45,968	11,913	25.9
ビジネスイノベーション		7.5	42,172	8.5	46,660	△ 4,488	△ 9.6
イメージング		13.3	34,703	6.4	14,130	20,573	145.6
計			210,073		142,971	67,102	46.9
全社費用及びセグメント間取引消去			△ 23,620		△ 22,503	△ 1,117	-
連結 合計		10.0	186,453	7.7	120,468	65,985	54.8

(注) 各区分に属する主要な製品の名称

ヘルスケア :	メディカルシステム機材、バイオ医薬品製造開発受託、 細胞(再生医療)・培地・試薬等の創薬支援材料、医薬品、化粧品・サプリメント等
マテリアルズ :	電子材料、ディスプレイ材料、ファインケミカル、産業機材、記録メディア、 グラフィックコミュニケーションシステム機材、インクジェット機材等
ビジネスイノベーション :	デジタル複合機、ソリューション・サービス等
イメージング :	インスタントフォトシステム、カラーフィルム、 写真プリント用カラーペーパー・サービス・機器、デジタルカメラ、光学デバイス等

②所在地別セグメント情報

【売上高】

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期 連結累計期間 自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日		2021年3月期第3四半期 連結累計期間 自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日		増減 (△は減少)	
						増減額	増減率
売上高 :		%		%			%
日本 :							
外部顧客に対するもの		43.9	816,734	46.8	735,149	81,585	11.1
セグメント間取引			405,126		338,605	66,521	-
計			1,221,860		1,073,754	148,106	13.8
米州 :							
外部顧客に対するもの		20.1	373,542	18.5	291,747	81,795	28.0
セグメント間取引			65,867		49,076	16,791	-
計			439,409		340,823	98,586	28.9
欧州 :							
外部顧客に対するもの		13.0	241,715	11.8	185,552	56,163	30.3
セグメント間取引			12,519		8,570	3,949	-
計			254,234		194,122	60,112	31.0
アジア及びその他 :							
外部顧客に対するもの		23.0	428,911	22.9	360,986	67,925	18.8
セグメント間取引			181,492		168,762	12,730	-
計			610,403		529,748	80,655	15.2
セグメント間取引消去			△ 665,004		△ 565,013	△ 99,991	-
連結 合計		100.0	1,860,902	100.0	1,573,434	287,468	18.3

【営業利益】

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期 連結累計期間 自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日		2021年3月期第3四半期 連結累計期間 自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日		増減 (△は減少)	
						増減額	増減率
営業利益 :		%		%			%
日本		7.6	93,168	5.0	53,701	39,467	73.5
米州		10.6	46,598	5.2	17,840	28,758	161.2
欧州		5.3	13,402	4.5	8,650	4,752	54.9
アジア及びその他		6.6	40,501	6.9	36,754	3,747	10.2
セグメント間取引消去			△ 7,216		3,523	△ 10,739	-
連結 合計		10.0	186,453	7.7	120,468	65,985	54.8

富士フイルムホールディングス(株)2022年3月期第3四半期決算

【海外売上高(仕向地ベース)】

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期 連結累計期間 自 2021年 4月 1日 至 2021年12月31日		2021年3月期第3四半期 連結累計期間 自 2020年 4月 1日 至 2020年12月31日		増減 (△は減少)	
		増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高 :		%		%			%
国内		38.2	710,401	41.7	656,728	53,673	8.2
海外 :							
米州		21.2	394,912	18.9	298,028	96,884	32.5
欧州		13.3	248,243	12.3	192,270	55,973	29.1
アジア及びその他		27.3	507,346	27.1	426,408	80,938	19.0
計		61.8	1,150,501	58.3	916,706	233,795	25.5
連結 合計		100.0	1,860,902	100.0	1,573,434	287,468	18.3

(注)【海外売上高(仕向地ベース)】は、取引先の所在地により区分し、表示しております。

2) 第3四半期連結会計期間(3ヶ月)

【事業セグメント別売上高】

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期 連結会計期間 自 2021年10月 1日 至 2021年12月31日		2021年3月期第3四半期 連結会計期間 自 2020年10月 1日 至 2020年12月31日		増減 (△は減少)	
		増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高 :		%		%			%
ヘルスケア		30.6	201,136	24.3	140,064	61,072	43.6
マテリアルズ		24.2	158,444	25.4	146,075	12,369	8.5
ビジネスイノベーション		28.1	184,336	32.1	185,158	△ 822	△ 0.4
イメージング		17.1	111,852	18.2	104,748	7,104	6.8
連結 合計		100.0	655,768	100.0	576,045	79,723	13.8

(注)各区分に属する主要な製品の名称

ヘルスケア :	メディカルシステム機材、バイオ医薬品製造開発受託、 細胞(再生医療)・培地・試薬等の創薬支援材料、医薬品、化粧品・サプリメント等
マテリアルズ :	電子材料、ディスプレイ材料、ファインケミカル、産業機材、記録メディア、 グラフィックコミュニケーションシステム機材、インクジェット機材等
ビジネスイノベーション :	デジタル複合機、ソリューション・サービス等
イメージング :	インスタントフォトシステム、カラーフィルム、 写真プリント用カラーペーパー・サービス・機器、デジタルカメラ、光学デバイス等

【海外売上高(仕向地ベース)】

単位 百万円

科目	期別	2022年3月期第3四半期 連結会計期間 自 2021年10月 1日 至 2021年12月31日		2021年3月期第3四半期 連結会計期間 自 2020年10月 1日 至 2020年12月31日		増減 (△は減少)	
		増減額	増減率	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高 :		%		%			%
国内		36.5	239,115	40.0	230,630	8,485	3.7
海外 :							
米州		22.0	144,290	19.4	112,000	32,290	28.8
欧州		14.4	94,666	13.6	78,164	16,502	21.1
アジア及びその他		27.1	177,697	27.0	155,251	22,446	14.5
計		63.5	416,653	60.0	345,415	71,238	20.6
連結 合計		100.0	655,768	100.0	576,045	79,723	13.8

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。